

施策評価シート

1. 基本情報			対象年度（28年度）					
施策コード	124		施策名	郷土文化の保全・継承				
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち（「暮らし」の分野）						
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち						
主担当部	教育部		主担当課	郷土博物館		係	事業係	
担当者	石川 智裕		役職	部長		内線	321	
関係課	市史編さん室							

2. 施策の方向			
10年後の姿	清瀬の歴史への理解が深まり、誇りと愛着が生まれています。また、次世代に清瀬の歴史と文化が継承されています。		
施策の方向性	1	市民が郷土文化にふれ、清瀬への愛着と誇りを高める環境を整備します	
	2	市の歴史や文化を次世代に継承します	
	3	学校教育での郷土博物館の資料や人材の活用を推進します	

3. 構成事業の状況				(単位:千円)			
No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算
0110050302	博物館協議会事業		すべて	郷土博物館	80	112	168
0110050303	博物館施設維持管理事業	対象	すべて	郷土博物館	14,649	33,957	18,858
0110050305	博物館事業	対象	すべて	郷土博物館	6,431	2,635	3,307
0110050602	文化財保全事業	対象	すべて	郷土博物館	693	880	571
0110050603	埋蔵文化財事業		すべて	郷土博物館	20	910	320
0110050604	旧森田家運営管理事業	対象	すべて	郷土博物館	517	888	918
0102010817	市史編さん事業	対象	2	市史編さん室	7,490	6,626	9,050
総事業費(施策の合計)					29,880	46,008	33,192

4. まちづくり指標										
指標情報						平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成31年度	平成37年度
①	名称	郷土博物館入館者数			目標値	—	47,000	48,000	48,000	51,000
	説明	郷土博物館に来場した人数	単位	人	実績値	46,000	54,379			
	抽出方法	来館者カウンターによる人数			達成率	—	115%			
②	名称	伝承スタジオ事業の参加者数			目標値	—	950	1,000	1,000	1,500
	説明	伝承スタジオを利用した人数	単位	人	実績値	900	1,013			
	抽出方法	事業報告書資料による人数			達成率	—	106%			

5. 評価(平成28年度実績に対する)			
評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果 〔3. 構成事業の 状況〕〔4. まちづ くり指標〕に対す る評価	総合評価 (成果、投入財源等を 総合的に評価)	B	構成事業の状況については、施設の方向性2には市史編さん事業を、1～3の全てには博物館協議会事業、博物館施設維持管理事業、博物館事業、文化財保全事業、埋蔵文化財事業、旧森田家運営管理事業等を、それぞれ目標達成の手段として構成されており、「10年後の姿」を達成するための適切な事務事業が展開されている。 まちづくり指標については、①「郷土博物館入館者数」は大きく目標達成。②「伝承スタジオの参加者数」も目標値を達成しており、概ね施策目的を達成した結果となった。

※A 「10年後の姿」を達成するために、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の達成が十分
B 「10年後の姿」を達成するために、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」に一部課題がある
C 「10年後の姿」を達成するために、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の達成が不十分

施策評価シート

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	社会や市民ニーズの変化の中で、郷土博物館への市民参画等、新しい取り組みが求められている。	3.施策の必要性を高める	郷土文化等への関心を高め地域への愛着を深めることができ、より身近な博物館となる。
将来人口の推移	高齢化が進み、館内施設の利用減退が懸念される。	3.施策の必要性を高める	より多くの若い世代や子供達に来館してもらえる様な企画を立て事業を展開していく必要がある。
他自治体との比較	他自治体の博物館及び博物館類似施設では館運営の支援組織でもある友の会等の維持存続には苦労している。	2.施策遂行に不利	友の会の活動が衰退すれば、企画展のボランティア協力や各事業の講師依頼などが出来なくなり施策の運営に影響が生ずる。
法・制度改正の動向	清瀬市郷土博物館条例を一部改正し、施設使用料などの規定を盛り込んだ。	3.施策の必要性を高める	施設利用の根拠が条例化されることにより利用方法が明確となる。
技術革新の動向	インターネットの普及により博物館運営に必要な情報の入手が容易になり収蔵資料等の公開や検索に役立つ。	1.施策遂行に役立つ・有利	博物館単独のホームページを作成することを検討している。ホームページができれば、博物館独自の情報発信力が向上する。

7. 今後の施策課題

No.	今後の施策課題(平成30年度に向けて)	左記課題に関する現在の取組状況
①	郷土博物館外壁等改修工事実施設計の実施。	改修箇所の確認を終え実施設計に係わる仕様書を作成中。
②	伝統文化・郷土芸能等を継承していく上で後継者不足となっている。今後どのように後継者の人材を確保していくかが課題となる。	文化財及び郷土芸能を保存、継承するため各保存会を支援し後継者の育成を図る。
③	平成21年度から着手している収蔵資料のデータベース化及び公開を完了させる。	今年度資料整理専門要員を1名設けて整理作業を進める体制を整えた。